

令和6年度 シラバス

愛媛県宇和島東高等学校津島分校

教科	数学	科目	数学探求	単位数	2	学年	3年	類型	カレッジコース
教科書	自作教材			副教材	—				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点	
				知	思	主		
1 学期	4	第1章 数と式	1 多項式の加法と減法 2 指数法則	◎	○		学習のねらい 1学期は、数と式の計算、方程式と不等式、1次関数、2次関数について復習します。 2学期は、三角比、集合と命題の復習、データの分析の学習、順列と組合せの復習をします。 3学期は、図形の性質、整数の性質について復習します。	
			3 多項式の展開 4 因数分解	◎	○			
			5 根号を含む式の計算 6 実数	◎	○			
	5	第2章 方程式と不等式	7 式の値		◎	○		
			1 1次方程式 2 連立方程式		◎	○		
			3 2次方程式 中間考査	◎	◎			
			4 解の公式 5 1次不等式 6 連立不等式	◎		○		
	6	第3章 関数	7 2次不等式 8 特別な不等式		◎	○		
			1 関数 2 1次関数 3 2次関数	◎	○			
			4 2次関数のグラフ 5 平方完成 6 最大値・最小値		◎	○		
	7	第4章 三角比	7 応用 8 関数の決定 9 2次関数のグラフとx軸 期末考査	◎	◎			
			1 三平方の定理 2 三角比の定義	◎	○			
3 三平方の応用 4 鈍角の三角比				◎	○			
2 学期	8	第5章 集合と命題	5 相互関係		◎	○	学習の目標 数学Iの分野（数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題、データの分析）と数学Aの分野（場合の数と確率、図形の性質、整数の性質）について、基礎的な知識の確認をし、演習を通して技能の習熟を図る。	
			6 正弦定理	◎		○		
			7 余弦定理		◎	○		
			8 面積 9 応用	◎	○			
	9	第6章 データの分析	1 集合 2 命題 3 必要条件・十分条件		◎	○		
			4 命題の逆・裏・対偶		◎	○		
			1 データ 中間考査	◎	◎			
	10	第7章 場合の数と確率	2 ヒストグラム 3 代表値		◎	○		評価の観点 知識・技能 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
			4 データの散らばり		◎	○		
			5 分散と標準偏差	◎		○		
			1 場合の数	◎		○		
	11	第8章 図形の性質	2 積の法則・席の法則	◎		○		
3 順列 4 組合せ				◎	○			
5 応用			◎		○			
12	第9章 整数の性質	6 確率 期末考査	◎	◎		思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		
		1 平面図形	◎	○				
		2 三角形の外心・内心・重心		◎	○			
3 学期	1	第9章 整数の性質	3 方べきの定理	◎		○		
			1 素因数分解	◎	○			
			2 約数と倍数		◎	○		
	2	第9章 整数の性質	3 公約数と公倍数 4 分数と小数		◎	○	主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。	
			学年末考査	◎	◎			
	3	第9章 整数の性質					備考	

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

【数学探究のPoint】

- 数学探究は「数学Ⅰ」と「数学A」の復習なので、これまでに学習したことを確認しながら学びます。
- それぞれの章において、基本事項を確認しながら、問題を解いていきます。
 - ① 計算方法、公式の利用など、もう一度確認しましょう。
 - ② 授業では扱わなかった応用問題にも挑戦してみましょう。
- データの分析では、1年生の時に学習できなかったことにも挑戦します。

【授業】

- 週に2時間の授業があります。
- 授業の流れは、次のようになります。
 - ① 公式・定理を学びます。 ② 例題の解説を聞きます。 ③ 練習問題、発展問題を解きます。
 - ④ 学習したことの振り返りをします。 ⑤ 小テストで学習の確認をします。
- 問題を解く手順や公式・定理の使い方をきちんと把握することが大切です。
- ノートは板書に加えて口頭で示された重要ポイントも記しておくことで復習するときに役に立ちます。
- 問題は自分で解くことを心掛けましょう。そのほうが理解が深まります。

【家庭学習】

- 宿題は授業の復習をするためにもその日のうちに済ませましょう。
- 1年次より学習内容の量も増え難易度が上がるため、家庭学習の時間をどれだけ確保するかが成功のカギとなります。
- 前日に教科書やノートに目を通して復習しておくことで、理解する度合いが違ってきます。公式・定理を確認するだけでも違ってきます。
- 教科書やノートを見ながらでもよいので、自分で問題を解くようにしましょう。

【定期考査】

- 公式・定理を覚えることが重要です。もちろん使い方もきちんと覚えましょう。
- 小テストの内容が考査の基本となりますので、よく復習をしておきましょう。
- より多くの問題を解くことが高得点への近道です。問題は自分できちんと解くことが大切です。
- 俗に言う一夜漬けでは目標点は望めません。日々、コツコツと学習しましょう。
- 定期考査の問題は一度は解いたことがあるものです。その気と努力があれば誰でも高得点をねらえます。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況において、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点別評価を行います。	
評価の規準	1 学期	中間考査、期末考査（「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点から評価します。） 出席状況及び学習意欲（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） ノートの整理状況（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） 課題提出状況等（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。）
	2 学期	中間考査、期末考査（「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点から評価します。） 出席状況及び学習意欲（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） ノートの整理状況（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） 課題提出状況等（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。）
	3 学期	学年末考査（「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点から評価します。） 出席状況及び学習意欲（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） ノートの整理状況（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。） 課題提出状況等（「主体的に学習に取り組む態度」の観点から評価します。）
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均